

平成30年度 教育事業
曾爾ボランティア養成研修



1. ねらい

- ①青少年教育施設の概要、運営、事業等について理解する。
- ②ボランティアとして必要となる知識・技能を習得する。
- ③ボランティア活動の内容や役割、対象者等について理解し、活動の楽しさ、自然のすばらしさを体験する。

2. 実施日

5月19日（土）～5月20日（日）1泊2日

3. 対象者

高校生以上

4. 参加者 / 募集定員

6名 / 20名（高校生：1名、大学生5名）
ボランティアスタッフ 4名

5. プログラム（要約）

本事業は、施設ボランティアとして、自然体験活動を支援するために必要な資質の確保並びに、ボランティア活動の意義や知識・技能の習得を目指し、施設ボランティアの役割やボランティア活動の魅力を伝えることを目的に行われた。また、当施設の使い方や様々な野外活動の実施方法なども含めて、ボランティアとして今後必要な力を「体験」を通して身につけるとともに、参加者が互いにコミュニケーションをとることができるプログラムを実施した。

スケジュール

5月19日（土）1日目

オリエンテーション・アイスブレイク
青少年教育の理解
安全管理（熱中症について、救急法）
ボランティア活動の意義
キャンプファイアー・キャンドルファイアー
青少年教育施設におけるボランティア活動

5月20日（日）2日目

青少年教育施設の役割・運営
野外炊事
ボランティア活動の意義と理解
曾爾ボランティアについて（ボランティア登録）

【1日目】5月19日（土）

はじめに、参加者、スタッフと共に2日間のめあてやボランティア養成研修のねらいを共有し、自己紹介やお互いを知る活動を行いながら、アイスブレイクを行った。

皇學館大学 叶俊文氏から、「青少年教育の理解」として、子どもたちの現状や自然体験活動の必要性についてなど、ボランティア活動に必要な基本的な知識等について講義を受けた。午後は、安全管理について、前半は「熱中症について」の講義（大塚製薬工場）を受け、後半はボランティア活動や自然体験活動で起こりうる、身近なケガや事故への応急手当の基本について学んだ。

夜は、キャンプファイアーの薪組みについて学習し、ファイアーの実際の流れについては、キャンドルを囲みながら、みんなでゲームや踊りを体験し盛り上がった。

最後は、ボランティアによるボランティア活動や事業の紹介が行われ、意見交換をしながら交流を深めた。



【2日目】5月20日（日）

「青少年教育施設の役割・運営」において、青少年教育振興機構や自然の家について理解を深めた。

昼食は、活動する機会が多い「野外炊事」を行い、まず1人ずつ【マッチ3本と薪1本】で、火おこしに挑戦し、ドキドキはらはらしながらも全員が着火することができた。その後、野外炊事の基礎基本を学びながら、「ちゃんこ鍋」をみんなで協力して作り、おいしくいただいた。最後、法人ボランティア登録についての説明を受け、登録を済ませた。



6. まとめ

2日間の講義や演習を通して、青少年教育施設における「ボランティア」の役割や「ボランティア活動」の意義を理解するとともに、自然の家の使い方、ルール、自然体活動のなど、施設の活動・生活の基礎基本を学ぶことができた。また、仲間との関わりの中で、お互いに高めあえる有意義な研修となった。

「体験を通して楽しく学ぶことができた」「ボランティアが楽しみになった」など、今後の活動につながる意欲的な感想や意気込みが多く聞かれ、一人ひとり「ボランティア」として新たな一歩を踏み出した。

（企画指導専門職 岡野 ころろ）